

社会政策学会 Newsletter

- ◇ 学会本部 京都大学大学院経済学研究科 URL <http://www.soc.nii.ac.jp/sssp/>
Tel:075-753-3461 E-mail:hisamoto@econ.kyoto-u.ac.jp
- ◇ 編集・発行 久本憲夫(代表幹事) 林 祐司(事務局長)
- ◇ 事務センター 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル (株)ワールドプランニング
Tel:03-5206-7431 Fax:03-5206-7757 E-mail:world@med.email.ne.jp

《目次》

1. 第 124 回(2012 年度春季)大会自由論題、テーマ別分科会の報告募集
2. 第 18 回学会賞候補作の自薦・他薦の募集
3. 2011 年度臨時総会の報告
4. 選挙管理委員会報告
5. 改正された会則・規程
6. 学会誌『社会政策』のあり方に関するパブリックコメントの募集
7. 高梨昌名誉会員の逝去について
8. 2010-2012 年期幹事会議事録
9. 承認された新入会員

1. 第 124 回(2012 年度春季)大会自由論題、テーマ別分科会の報告募集

社会政策学会第 124 回大会は、2012 年 5 月 26 日(土)と 27 日(日)に駒澤大学駒沢キャンパスで開催されます。

春季大会企画委員会では、同大会で開かれる自由論題およびテーマ別分科会での報告を募集しています。報告をご希望の方は、下記の要領でご応募ください。

なお、5 月 26 日(土)は終日を共通論題にあてます。自由論題およびテーマ別分科会は 5 月 27 日(日)となります。

(1)自由論題で報告を希望される会員は、学会のホームページからダウンロードした応募用紙に、報告タイトル、所属機関とポジション、氏名(ふりがな)、連絡先(住所、電話、Fax、E-mail アドレス)、400 字程度のアブストラクト、専門分野別コード(1.労使関係・労働経済、2.社会保障・社会福祉、3.労働史・労働運動史、4.ジェンダー・女性、5.生活・家族、6.その他)等の必要事項を記入のうえ、添付ファイルとして下記の E-mail アドレスにご応募ください。

自由論題報告 応募・問い合わせ先
spring124jiyu@yahoo.co.jp

なお、論文、あるいは他の学会報告等のかたちで既発表の報告の応募は、不採択といたしますのでご注意ください。また、自由論題に応募資格があるのは、会員で、当該年度まで会費を納入されている方です。

当日は、報告 25 分、質疑 10 分となります。

(2)テーマ別分科会の企画を希望する会員は、学会のホームページからダウンロードした応募用紙に、分科会タイトル、

分科会設定の趣旨(400 字程度、非会員を報告者に招聘するときは、招聘しなければならない理由を記入)、座長・コーディネーターの氏名(ふりがな)、所属機関とポジション、連絡先(住所、電話、Fax、E-mail アドレス)、報告者の氏名(ふりがな)、所属機関とポジション、E-mail アドレス、各報告のアブストラクト(400 字程度)、予定討論者の氏名(ふりがな)、所属機関とポジション等必要事項を記載のうえ、添付ファイルとして下記の E-mail アドレスにご応募ください。なお、テーマ別分科会の企画に応募資格があるのは、会員のみです。

テーマ別分科会報告 応募・問い合わせ先
bunkakai2012@gmail.com

以下は、自由論題とテーマ別分科会の応募に共通の注意事項です。

(3)応募は、原則として、学会ホームページからダウンロードした応募用紙に必要事項を記入し、添付ファイルとして、上記の E-mail アドレスにお送りいただくことになっています。しかし、コンピューター環境が整っていない場合は、上記の通りの必要事項をきれいに記載して、下記の春季大会企画委員長宛に郵送でお送りいただいても結構です。

(4)応募用紙の「趣旨」「アブストラクト」の「400 字程度」との字数をお守りください。記入の不完全なもの、字数の著しく過剰なものや過少なものは、応募を不採択とさせていただきます。

(5)応募にあたっては、2012 年 1 月 20 日(金)現在の所属機関とポジションをご記入ください。大会プログラムには、原則として所属機関のみを表記しますが、院生の場合は所属機関とポジション(院生)を表記します。4 月 1 日より変更となる方は、報告時のフルペーパーに新しい所属機関などを各自がお書きくださることで、変更にご対応ください。

(6)応募用紙に、タイトルおよび報告者の氏名・所属機関・ポジションの英語表記を記入していただくことになっていますので、ご注意ください。

(7)応募の締め切りは、2012 年 1 月 20 日(金)です。郵送の場合は当日必着です。締め切りは厳守です。その後の応募は不採択とさせていただきます。

(8)応募された方に対しては、締め切りから 1 週間以内に応募用紙受理の連絡を行います。この時までには連絡のない場

合はなんらかの事故の可能性がありますので、問い合わせE-mail アドレス(あるいは下記の春季大会企画委員長宛)にお問い合わせください。

(9) 応募の採択と不採択の結果については、春季大会企画委員会および幹事会で審査の上、2月中旬までにご連絡する予定です。

(10) 自由論題およびテーマ別分科会で報告が採択された方には、大会2週間前までにフルペーパーを、自由論題は100部・テーマ別分科会は150部(日本語が好ましいが英語も可、その他の言語は不可)の開催校への送付をお願いしていますので、あらかじめご了解ください。

(11) 自由論題およびテーマ別分科会で報告された会員は、大会での報告後、フルペーパーに改善を加えて、社会政策学会誌『社会政策』に投稿されることを、幹事会と学会誌編集委員会はつよく奨励し期待しています。大会用フルペーパーは、その後の投稿を考慮してご執筆ください。なお、『社会政策』へ投稿する資格があるのは、会員のみです。

春季大会企画委員会委員長 布川日佐史(ふかわひさし)
〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷 836
静岡大学人文学部 jehfuka@ipc.shizuoka.ac.jp
電話:054-238-4556(直通) FAX:054-237-1195

春季大会企画委員会委員長 布川日佐史

2. 第18回学会賞候補作の自薦・他薦の募集

10月9日に新たな学会賞選考委員会が発足いたしました。選考委員会では2012年1月から選考を進めていきたいと考えております。つきましては、学会員の皆様に第18回学会賞の候補作の推薦をお願い致します。自薦・他薦を問いません。学術賞・奨励賞いずれの候補であるかを付記していただけると幸いです。

候補作の条件は、表彰規定第4条に基づいて、本学会に3年以上継続して在籍している会員によって、2011年1月1日から12月31日までの間に公刊された著書です。よろしく願い申し上げます。

推薦される場合は、その旨を2011年1月末日までに下記にメールまたは郵便でご連絡ください。候補作の現物の寄贈を歓迎致します。

社会政策学会賞選考委員長 土田 武史
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1
早稲田大学商学部 土田武史研究室
tsuchida@waseda.jp

学会賞選考委員長 土田 武史

3. 2011年度 臨時総会の報告

第123回大会が開催された京都大学において10月8日(土)に臨時総会が開かれ、下記の議題が報告・審議されました。

議題

1. 役員選挙の結果報告
2. 会則・規程の改正について

3. 名誉会員の推挙について

4. その他

会則及び規程の改正案、ならびに名誉会員の推挙(神代和欣氏)はともに、幹事会の提案通りに承認されました。役員選挙の結果ならびに会則・規程の改正については別項を参照されたい。

代表幹事 久本 憲夫

4. 選挙管理委員会報告

2012-2014 年任期役員選挙の結果について、以下の通り報告する。開票作業は10月7日(金)に選挙管理委員立会いのもと京都大学で行われた。有権者数1227名、投票者数169名、

投票率13.8%であった(投票の締切後に届いた6票は無効とした)。なお、開票の結果、同数であった場合は規程にしたがって抽選を行い決定した。

<開票結果>

- 九州中四国ブロック(定員2名)
(当選) 石井まこと 10票 阿部 誠 10票
(次点) 吉田 誠 8票
- 関西北陸東海ブロック(定員4名)
(当選) 玉井 金五 21票 久本 憲夫 19票 所 道彦 18票 吉村 臨兵 17票
(次点) 布川日佐史 14票

- ・ 関東甲信越ブロック（定員8名）

(当選) 菅 沼 隆 18票	松丸 和夫 15票	矢 野 聡 14票	武川 正吾 14票
平岡 公一 12票	佐口 和郎 12票	田中 洋子 12票	大沢 真理 12票
(次点) 禹 宗 杭 11票			

- ・ 東北北海道ブロック（定員2名）

(当選) 宮本 太郎 25票	上原 慎一 11票
(次点) 藤原 千沙 9票	

- ・ 会計監査（定員1名）

(当選) 遠藤 公嗣 9票	
(次点) 埋橋 孝文 7票	

以上

選挙管理委員会：埋橋 孝文、大西 祥恵(委員長)、小笠原 浩一、杉田 菜穂、林 祐司

5. 改正された会則・規程

2011年10月8日に開催された臨時総会において、下記の通り、会則・規程が改正されましたので報告します。

太字が追加された文言であり、打ち消し線が削除された文言です。

1. 会則

第24条 本会は、日常業務を処理するため、代表幹事のもとに事務局を置き、つぎの会務を処理する。

1. 大会および総会の開催に必要な事項
2. 会費の徴収および経理事務
3. 予算案および決算書の作成
4. **ニューズレターの編集・発行**
5. **その他会の運営に必要な事項**

代表幹事は、幹事会の承認を得た上で、会務の一部を他機関等に委託することができる。

2. 広報委員会規程

第1条 広報委員会は、~~ニューズレターの編集・発行~~、学会ホームページ、会員に対する電子メールを用いた情報提供など、学会の広報活動に関する業務を担当する。

3. 国際交流旅費規程

(新設) 1- 2. 外国の学会との間に締結した交流協定に基づき、社会政策学会から当該学会の学術大会に代表者を派遣する場合、代表者に交通費、滞在費を支給することができる。

4. 会費規程

第2条 会員は、会費として毎年10,000円納めるものとする。ただし大学院生並びに常勤職に就いていない会員は、毎年7,000円納めるものとする。日本国外に居住

する外国人会員の会費については、幹事会が別途定める規程による。

(新設) 第2条の2 前項に定めた会費区分に変更があった会員は速やかに届け出るものとする。会費の金額の変更は、届け出がなされた年度から適用する。ただし、届け出のあった年度にすでに会費が振り込まれている場合、会費の金額の変更は翌年度から適用する。

附則 本規程は、1999年4月1日から施行する。ただし第2条のうちの常勤職に就いていない会員に関する部分は2012年4月1日から施行する**外国大会員に関する部分は2008年4月1日から施行する。**

5. 社会政策学会誌編集規程

8. 著作権

本誌に掲載された著作物の著作権は社会政策学会に属する。掲載された論文等の著者は、論文を電子化してインターネット・ウェブサイト上で公開することに同意する。

6. 社会政策学会誌編集委員会規程

4. 委員会の構成は委員長を含め **12** 20名以内とする。

7. 社会政策学会誌投稿規定

(新設) 9. すでに本誌に投稿し、不採択となった原稿の再投稿は、原則として受理しない。

8. 「社会政策学会賞表彰規程」に関する細則

2. 審査に要した書籍の購入費について各委員は各年度 **2** 4万円を上限として請求できる。請求には経費請求書を用いるが、購入点数は審査終了後に会計担当幹事に報告し、その際に購入書籍の領収書を提出するものとする。

6. 学会誌『社会政策』のあり方に関するパブリックコメントの募集

幹事会で学会誌『社会政策』について議論を行った結果、『社会政策』のあり方について広く会員から意見を募ろうということになりました。

ご意見のある方は次の連絡先に2012年1月31日(火)までにご意見をお寄せ下さい。様式は自由です。どうぞよろしくお願い致します。

社会政策学会 事務局長 林 祐司
〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1
首都大学東京 大学教育センター 林祐司研究室
E-mail: yhayashi@tmu.ac.jp

事務局長 林 祐司

7. 高梨昌名誉会員の逝去について

社会政策学会の活動に長年にわたって積極的に関与していただいた高梨昌名誉会員(信州大学名誉教授)が、2011年8月30日に胃がんにより、逝去されました。葬儀は近親者で行われました。

高梨名誉会員の社会政策学会への多大な貢献に感謝するとともに、哀悼の意を表します。

代表幹事 久本 憲夫

8. 2010 - 2012 年期 幹事会議事録

社会政策学会 第7回幹事会 議事録

日時：2011年7月2日(土)13:00~16:45
場所：京都大学・法経済学部東館・1F101 演習室
出席：居神、石井、禹、小笠原、鹿嶋、笹島、佐藤、武川、田中、所、久本、布川、矢野
オブザーバー：林(事務局)
欠席：猪飼、埋橋、遠藤、王、大沢、佐口、菅沼、関口、都留、長井、野村

1. 会員の入会について

15名の入会が承認された。

2. 第122回(2011年度春季)大会実行委員会報告

第122回大会が開催された明治学院大学の笹島幹事から、大会会計の処理について資料に基づき説明があり、会計処理を原案どおり行うことが了承された。

3. 編集委員会報告

編集委員長の禹幹事から、第3巻第2号の刊行予定について説明があった。

編集副委員長の佐藤幹事から、投稿論文の審査状況について説明があった。

論文が投稿されてから掲載されるまでの期間が他の学会の雑誌に比べると長い印象がある。2010年度の査読が長引いたことの一因に、投稿論文の査読を担当する査読専門委員がなかなか決まらないという問題があったが、久本代表幹事と編集委員長の連名で「査読専門委員へのご協力をお願い」を送付して以来、査読者の決定が円滑に進むようになったことが報告された。

査読者の選定を迅速に進める等して、できる限り掲載までの期間を短くするように取り組むことが確認された。

禹幹事から、小特集の応募が2件あったことが報告され、幹事会として掲載を了承した。第3巻第3号以降の学会誌の発

刊スケジュールについて説明があった。

また、編集体制を拡充するために、編集委員定数を12名から20名に増員することが提案され、了承された。

兎幹事から、学会倫理綱領で禁止している二重投稿の定義について問題提起があった。幹事の間で意見交換を行い、長期的な視点から学会としての方針を具体化していくことになった。

4. 広報委員会報告

学会ウェブサイトのサーバーの変更に合わせて、学会ウェブサイトのデザインを一新することが広報委員会で検討されており、デザイン刷新に向けて30万円の予算増額が要求された。

ウェブサイトのデザイン変更は、後ほど学会がコンテンツの追加を自在に行えるように行えるデザイナーが見つかったときに実施する方向で検討が進められていることが説明された(広報委員長の猪飼幹事が欠席のため、事務局が代わりに説明)。幹事の間で意見交換し、予算増額を了承した。

5. 秋季大会企画委員会報告

秋季大会企画委員長の田中幹事と副委員長の石井幹事から京都大学で開かれる第123回(2011年度秋季)大会について報告があった。

自由論題は39報告(3報告をまとめて13セッション)、テーマ別分科会は10セッションの応募があり、書評分科会2セッションと合わせて、25セッションが開催される予定であることが報告された。

テーマ別分科会について、東日本大震災に関する分科会について説明があった。また、自由論題の座長を決定した。さらに、共通論題の準備会に関する報告があった。

7月中旬にプログラム原稿の確定版を作成し、開催校である京大に引き渡す予定であることが報告された。

大会ポスターに加えて、チラシも作ったことが報告され、プログラムとともに会員に発送する予定であることが説明された。

また、ポスターやチラシを京大近辺で配布し、大会の開催について宣伝を行うことを計画していることが報告された。

編集委員長の禹幹事から、学会誌への報告者論文や座長論文の掲載について確認があった。この確認に対して、多忙を極める報告者を除いて入稿されるのではないかと説明があった。

6. 第123回(2011年度秋季)大会実行委員会報告

第123回大会開催校の久本代表幹事から、大会開催の準備状況について報告があった。

7. 春季大会企画委員会報告

春季大会企画委員会の布川幹事から、第124回(2012年度春季)大会の共通論題では震災の問題と原発事故の問題を扱う方向で検討を進めていることが報告された。

第123回大会において開催されるテーマ別分科会の成果を踏まえて7月16日に議論することになっており、8月には内容や人選を固めたいという説明があった。

なお、震災と原発を1回の共通論題で扱えるかが検討されており、場合によっては共通論題を1日2回実施することも視野に入っていることが説明された。

幹事からは、復興の議論はタイミング的に難しいのではないか、東日本大震災だけでなく阪神大震災やその他の震災も扱うことで手堅い研究報告が可能なのではないか、国際的な議論を視野に入れるのがよいのではないかと意見があった。布川幹事からは、現場の実態を踏まえつつ、しっかりした分析に基づく報告がなされるように配慮したいという認識が示された。

8. 国際交流委員会報告

国際交流委員長の矢野幹事から、日本・東アジア社会政策部会が引き続き、韓国社会政策学会と結んだ交流協定の窓口を担当しており、部会と国際交流委員会の連携のもと交流を進めていることが報告された。

また、中国についても前向きに国際交流協定の締結に向けて検討を進めていきたいという説明があった。

9. 学会賞選考委員の委嘱について

学会賞選考委員の人選について、従来どおり委員が専門とする分野と委員のジェンダー等に配慮し、バランスよく進めていくことになった。

10. 選挙管理委員会の人件費の支出について

2011年10月7日(金)に行われる役員選挙の開票作業について、従来どおり大会開催のためのアルバイトを活用することを確認した。

11. 学会誌の今後の扱いについて

代表幹事から、学会誌の発刊について、紙媒体を従来どおり書店流通させる形式、書店流通をとりやめ学会員だけの配布とした上で発刊当初よりオンラインでPDFを公開する形式、紙媒体の発刊はとりやめて完全なオンラインジャーナルとする

形式など様々なあり方が考えられるという問題提起がなされ、幹事の間で意見交換がなされた。

幹事からは、書店流通をとりやめることで編集は現状より小回りがきくようになるのではないかと、質の高い編集実務を任せられるところはあるのか、図版の色刷りも可能となるのではないかと、紙媒体を完全に無くして図書館に所蔵されなくなるのは問題があるのではないかと、といった意見が出された。

学会誌については投稿論文の査読の問題など他にも問題があるので、一度、ニューズレターを通じて学会員からパブリックコメントを収集することが提案され、了承された。

12. 事務局報告

事務局から下記の事項について報告があり、議論を行った。

1) 旅費規程について

旅費支給に関する試算の結果が報告され、幹事の間で意見交換を行った。旅費を全額支給すると、どの程度の支給額になるのか想定できず、総支給額が大幅に増加する可能性がある。そのため、旅費予算と旅費執行額に現在差があることから、支給率をあげて両者を合わせる方向で調整することになった。

2) 規程の改正について

会則、広報委員会規程、会費規程、国際交流旅費規程、社会政策学会誌編集委員会規程、社会政策学会誌編集規程の改正案が提案された。一部、文言の修正を行った上で、原案が承認された。

2011年9月発刊予定のニューズレターで改正案を会員に周知し、第123回(2011年度秋季)大会で開かれる臨時総会で審議する運びとなった。

3) 学会誌の電子化について

学会誌の電子化に関する作業の進行について報告があった。

4) 大会報告者の原稿の取り扱いについて

現在学会大会では、自由論題で100部、テーマ別分科会で150部、報告者がフルペーパーを印刷して大会開催校に送付している。これを他学会に倣って報告論集とした場合にどうなるのかについて幹事の間で意見交換を行った。

幹事からは、将来はこちらにいくかもしれないが参加費の値上げなどが必要となるので全部一挙に持って行くのは難しいこと、若手会員の間では報告したものが残らないので次第に報告する気力がなくなるという声があること、報告論文の電子ファイルを大会期間中にサーバーにアップロードすることも考えられること、大会開催校の負担が増大することなど様々な意見が出された。

13. 名誉会員の推薦について

第123回(2011年度秋季)大会にて推薦する名誉会員について意見交換を行った。

以上

9. 承認された新入会員

氏名	所属名称	専門分野
10月7日承認分		
綾 高德	(株)日本総合研究所	その他
千葉 俊之	東京大学大学院医学系研究科	社会保障・社会福祉
新井田智幸	東京大学大学院経済学研究科	労使関係・労働経済
牧 陽子	早稲田大学大学院社会科学科研究科	社会保障・社会福祉
君嶋千佳子	法政大学大学院政策科学研究科	労使関係・労働経済
五十畑浩平	中央大学経済学部	労使関係・労働経済
櫻井 潤	北海道医療大学看護福祉学部	社会保障・社会福祉
佐藤 哲彰	千葉商科大学商経学部	労使関係・労働経済
高橋 義明	国際協力機構JICA研究所	生活・家族
10月8日承認分		
長谷川美季	東北大学大学院経済学研究科	社会保障・社会福祉

お知らせ 「社会政策学会研究会情報」の更新情報をお手持ちのパソコンのブラウザに配信しています

学会では会員の皆様に、学会に関連する研究会の開催情報を「社会政策学会研究会情報」(http://d.hatena.ne.jp/sssp_information/)より発信しています。

お手持ちのブラウザのRSS機能を活用しますと、「社会政策学会研究会情報」が更新されたさい、更新情報がブラウザに自動的に配信され、2010年6月まで行っていた研究会情報のメール配信と同等の利便性を維持できます。

学会ではInternet Explorer、Safari、FirefoxでのRSS登録方法をPDFにて説明しています。ぜひご利用ください(http://www.soc.nii.ac.jp/sssp/rss_guidance.pdf)。

